

2017年4月5日発行  
日本比較文化学会関東支部

2017年度第1号のレター発行となります。本号では、2017年3月11日(土)に東京未来大学にて開催されました。「第46回支部例会」での支部会員の発表要旨、並びに、同日に執り行われました「2016年度関東支部総会」における決定事項を掲載致します。

日本比較文化学会関東支部事務局長 郭 潔蓉

### ◆第46回 関東支部研究例会 ご報告◆

2017年3月11日(土)、東京未来大学 本館・会議室2において第46回関東支部例会が開催されました。当日は5名の会員による研究発表が行われましたが、各発表において積極的な意見交換がなされ、大変有意義な例会となりました。以下、例会での研究発表の要旨を掲載致します。

◆開会の挨拶: 関東支部長 近藤俊明 (東京未来大学)

◆研究発表:

#### 1. 日本人の台湾経験をめぐり一考察(その2)

足利工業大学教職課程センター 教授  
野口 周一

報告者は、日本人が台湾に滞在し、そこで生活することにより、後の生活において、その「台湾経験」をどのように生かしてきたか、という点に関心を有している。

現在までに3名の日本人について、調査を進めている。第一に教育者・作家として著名な下村湖人(1884~1955)は、1925年から31年(大正14~昭和6)までの間、台中一中校長、台北高等学校校長として台湾にあった。第二に「蟻の街のマリア」と謳われた北原怜子の師として知られた松居桃楼(1910~1994)は、台湾総督府の要請で演劇指導者として、1942年から1946年まで(昭和17~21)の間、台湾にあった。第三に歌人の渡辺よしたか(1898~1983)は、1906年から46年まで(明治39~昭和21)、歌作と歌会活動に奔走した。

三者の生き様を概観すると、下村湖人と松居桃楼は日本人の台湾支配について、台湾の人々に頭を垂れる感があるのだが、渡辺よしたかは、台湾は日本の内にあるという感慨をもっていたと憶測できる。本報告は、その差異を考えていくことを目的とする。

## 2. パール・バック論

筑波大学大学院人文社会科学研究所 博士課程後期  
野田 晃生

パール・バック(Pearl Sydenstricker Buck)(1892-1973)は、ピューリッツァー賞受賞者、1938年のノーベル文学賞受賞者として知られる作家である。

彼女は、それまで西洋に深く知られていなかった中国、東洋を西洋に対して知らしめたことに加えて、ウェルカム・ハウスの設立等、社会福祉事業にも深く関わったことが業績として挙げられる。

また、彼女自身が知的障害を持つ子供の母親であり、彼女の作品『大地』(原題は、“The Good Earth”)には、登場人物にその投影が見られる。加えて彼女は、『母よ嘆くなかれ』(原題は、“The Child Who Never Grew”)を発表し、自身が知的障害児の母親であることをカミングアウトした。彼女は、障害児の親・家族としての活動にも力を注いでおり、日本において知的障害児の親の会が設立される際にも、文章を寄せている。

パールは、同じ悩みを持つ、障害児の親達、そして子ども達が手を取り合い、共生することについて考え、書き、その考え・活動は日本にももたらされた。

本発表においては、知的障害児の親としてのパール・バックの作品、社会活動について検討することによって、その作品・活動がもたらしたものと、そして、それが現在にまでどのように続いているか、について論じる。

## 3. E・H・カーの『危機の20年』にみるユートピアニズムとリアリズム

聖学院大学大学院 博士課程  
中澤 和夫

E・H・カーは国際政治学者、歴史学者として有名である。それは、かれの数多くの著作のなかで『危機の20年——理想と現実——』、『歴史とは何か』は世界的に有名であり、それぞれ国際政治学、歴史学の古典として現在でも広く読まれているからである。

本稿では、国際政治学を研究するうえで無視することのできない『危機の20年——理想と現実——』についてとりあげ、そのなかでも現在でも議論の多い現実主義と理想主義についてカーは現実主義と理想主義をどのように捉えていたのかを分析した。

はじめにカーのユートピアニズムを概観し、つぎにかれのユートピアニズム批判を概観することによって、かれは国際政治学においてユートピア思想をどう位置づけていたのかを考えた。さらに、同じ方法によってかれのリアリズムを概観し、それと比較するという方法でかれのリアリズム批判を検討した。そして、カーは最後にユートピアニズムとリアリズムの整合性を主張した。

## 4. 地域間交流と港湾政策の関係に関する研究 —北陸地方の港湾を中心に—

宇都宮大学大学院 国際学研究所 博士後期課程  
長田 元

島国である日本は港を活用することで国内の地域間や他国との交流を行ってきた。日本海沿岸地域の自治体や国の機関は、港と地域間交流(諸外国含む)の關係に着目し、『現代版北前船航路の形成』、『北陸圏広域地方計画』といった政策において物流拠点の整備のみならず港を核とした地域間交流を促進させる取組みを行っている。

筆者の地域間交流と港湾政策の関係に関する研究は十分に進んでいないとの問題意識のもと、先行研究を整理のうえ、先行研究が指摘した『新しい港の位置付け』に着目し上記2つの政策を考察する。

上記2つの政策の考察では、2つの政策が物流拠点としての機能にとどまらず、背後地における企業の定着、トラックドライバーの不足といった社会の課題や国内の広域な地域間交流の基盤となっていることを明らかにし、その背景に北前船及び北前船主が指向したバランスのよい産業構成が背景にあることを論じる。

結論として、2つの政策から『新しい港の位置付け』に相当する役割を見出し、地域間交流を推進するにあたっての共通ビジョンへの位置付けに向けた研究の必要性を論じる。

## 5. 小学校における英語プレゼンテーションの役割

東海大学湘南学舎外国語教育センター 准教授  
高橋 強

本年度、発表者は東海大学湘南校舎において高大連携委員という役割を担っており、小学校から大学までの英語教育の連携の重要性が年々高まっている。その中で、今回注目しているのが小学校における英語プレゼンテーションについての役割とその重要性についてである。本学の法人の中で唯一の小学校であり、静岡県静岡市清水区に校舎のある東海大学付属静岡翔洋小学校での英語コミュニケーション能力育成に特化した英語教育の取り組みを実践している本学付属の小学校について発表したいと思っている。

上記した小学校は、低学年から実践的な英語コミュニケーション能力を育成するために早い段階から英語教育、特に、英語を話す、聞くといった、実践的なスキルを重視した英語教育を他の小学校より先駆けて導入し、実践している学校である。2016年6月に東海大学の高大連携委員会の打ち出した英語教育に関する3つの柱の実現へ向けて着実に英語教育を実践している小学校である。それによると2019年までに小学校においては卒業時までに英検ジュニアのGoldレベル合格者を90%以上にまで達成させることとTOEFL Primaryの実施、さらに、CEFRのA1,A2レベルの英語習得を目標として掲げており、現時点での報告と今後の展望について述べることとする。

また、授業を見学し、いかに英語でのプレゼンテーションが重要であるのかについて、小学校の児童が行った北海道への修学旅行についての英語プレゼンテーションについて述べたいと思う。またプレゼンテーションを効果的に行うにはどんなことが必要なのか、準備について、教員と児童の取り組みはいかがなものだったのかについて英語教育の観点やメンターとしての教師の役割、家庭学習、英語プレゼンテーションに必要なスキルなどの様々な観点から述べてみることにする。さらに将来にわたり英語を駆使して社会に出て他者と協調し英語で円滑なコミュニケーションを図ることが出来るようになるための準備段階であると位置づけており、実際の英語の授業実践で重視していることやテスト対策などについて実際のデータに基づいて発表するものとする。

最後に、英検ジュニアやTOEFL Primaryテスト対策についての準備や対策も含め、英語コミュニケーション能力を育成することでいかに効果的に目標を達成できるのかについても触れることとし、全国的に本学付属小学校の英語力のレベルがどの位置にあるのかについても同時に述べることで、全国平均を知ること、授業実践している英語プレゼンテーションの効果はいかなるものであったのか、また問題点はどのようなものであったのかについて考察を深めて今回の発表を行うものとする。

◆閉会の挨拶： 関東支部副支部長 高橋 強（東海大学）

\* 閉会后、2016年度関東支部総会を開催致しました。

◆2016 年度 関東支部総会 ご報告◆

- (1) 総会開会の辞 議長 近藤 俊明 (東京未来大学)
- (2) 2016 年度会計報告 関東支部事務局長 郭 潔蓉 (東京未来大学)  
会計報告の詳細は、後日学会HPに掲載予定。
- (3) 2017 年度人事案 関東支部長 近藤 俊明 (東京未来大学)  
2017 年度は、関東支部役員人事の改選の必要が無いため、前年度の人事体制を継承する案が  
審議され、承認されました。
- (4) 2017 年度活動計画 関東支部長 近藤 俊明 (東京未来大学)  
① 全国大会 2017 年 5 月 20 日(土) 静岡県立大学  
② 関東・東北合同支部例会 2017 年 9 月(予定) 関東にて開催  
③ 関東支部例会 2017 年 12 月(予定)  
④ 関東支部例会・総会 2017 年 3 月(予定)
- (5) 総会閉会の辞 関東支部事務局長 郭 潔蓉 (東京未来大学)

※大会閉会后、懇親会を行いました。

以上